2020年度（第 52 回）倉田奨励金

受領No. 1443

高度経済成長期におけるビルの意匠的特質に関する研究
―名古屋都市圏を事例として―

代表研究者　謡口 志保　名古屋市立大学大学院　芸術工学研究科　博士後期課程

A study on designing characteristic of the building during economic growth period
-Based on Nagoya and its neighboring area-

Representative　Shiho UTAGUCHI, Graduate School of Design and Architecture, Nagoya City University, Doctoral Course

研究概要

本研究は、名古屋都市圏の高度経済成長期のビルを対象とし、意匠的特質に関する考察を通じて学術的な価値づけを行うことを目的としている。これは、持続可能なまちづくりに必要な既存ストック建築に着目し、従来の建築史研究の範疇ではなされなかった新たな評価を加える試みである。

私は研究者としてだけではなく、実務者（一級建築士事務所主宰）としての経験及び知識を持ち合わせており、複合的な観点から本研究を行うことができる。高度経済成長期に建築されたビルの多くは、その価値を十分に評価されることもなく、老朽化や耐震性不足などを理由に次々と解体されている。また、改修等の手法を用いてビルが再利用される場合は、いわゆるスケルトン状態として躯体のみが使用される事が多く、現代では再現できない当時のデザインや建築の文化的側面を重要視しない事例が散見される。

本研究では、既刊の建築雑誌や同時代の建築に関する資料等を用いて同時代のビルの意匠的な傾向や潮流を炙り出した上で、現況調査による実態把握及び竣工図面の分析を行い、意匠的な特質を明らかにすることにより、対象となる時代のビルに新たな価値を見出す。